

No. 88 (2023.7.13)

日本線虫学会ニュース

The Japanese Nematological Society News

目次

◆ 巻頭言（長谷川 浩一）	1
◆ 2023～2024 年度学会運営体制（学会事務局）	3
◆ 日本線虫学会第 30 回大会案内（大会事務局）	4
◆ 日本の線虫拠点紹介シリーズ第 27 回 「龍谷大学 浅水研究室」（浅水 恵理香）	9
◆ 編集後記	10

巻頭言

長谷川 浩一（中部大学）

2002年に日本線虫学会に入会してから、学生からポスドク、そして大学教員となって今に至るまで、私の研究そして教育は線虫学を軸にして進めてまいりました。自分の立場が変わり、時代が変わり、多くのことが大きく変わってきているのですが、世のひとたちがあっと驚く研究を発表でき、学生や若手研究者が成長できる研究を実践でき、線虫学はなかなか良い学問分野であるとの思いは変わっていません。線虫学会に所属する諸先生方も、きっと同じ思いでいらっしゃるのかなと思っています。

また、線虫が原因で多くのひとたちが苦しんで困っている問題は、まだまだ世界中にたくさん残されていて、線虫学者がしっかり取り組んで解決しなければなりません。現代人は快適な日常生活を当たり前のように享受していますが、線虫学のお陰で支えられていることもとても多く、そういった場面を見聞きするととても誇らしい気持ちになります。線虫学会に所属する研究所や各機関の方々、そして農林水産業に従事されるの方々には、本当にお世話になっています。

学会運営メンバーそれぞれの本務が年々忙しくなり、運営にも支障をきたしはじめていましたので、前体制ではコロナを乗り越えながら運営の合理化を図ってまいりました。研究発表の多様化、ジャーナルのオープンアクセス化・ビジネス化がすでに普及・定着し、ジャーナル運営も旧来のやり方では立ち行かなくなってしまいました。線虫学の大切さ面白さは変わらないはずですので、日々の雑務の沼にはまり、変化の大波に翻弄されつつも、学会をしっかり運営していかなければなりません。実験をして、

大会で発表して、論文投稿する、といった基本を皆さんに続けていただかなければなりません。

大急ぎであったものの今期運営メンバーの皆さんとは意見交換を重ね、意志を共有しながら、それぞれ任務をお引き受けいただけることとなりました。以下、紹介させていただきます。

気軽に相談しながら業務を分担し、なるべく楽しく前向きに運営できるよう、各幹事をお二人ずつで担っていただくことになりました。学会窓口であります「庶務幹事」は、青森県産業技術センターの青山さんと三重大学の北上先生がご担当されます。「会計幹事」は明治大学の浴野先生と農研機構の坂田さんをお願いし、予算を有効活用して学会運営の合理化を更に進めて頂こうと思います。理化学研究所の佐藤さんと農研機構の与謝野さんは、ニュースやHPで情報発信してもらう「広報幹事」をご担当されます。そして農研機構の酒井さんには「事務局長」として学会運営を統括されます。

Nematological Research「編集委員長」は、佐賀大学の吉賀先生と明治大学の新屋先生にご担当いただきます。しばらくは「旧システム」の下で皆さんから投稿を募り、迅速な対応と発行期限を厳守し、学会員の皆さんに安心していただけるよう努めてまいります。そして、ジャーナルの役割や運営を根本から見直し、事務局と連携して「新システム」の方針を打ち出してまいります。旧システムを走らせながら、新システムの検討をしなければなりませんので、京都大学の竹内先生、農研機構の村田さん、宮崎大学の田中先生、森林総研の小澤さんに「編集幹事」としてお知恵を拝借しながら運営してま

います。森林総研の相川さん、(有) ネマテンケンの Gaspard さん、龍谷大学の岩堀先生、森林総研の神崎さん、東京大学の菊地先生、森林総研の小坂さん、農研機構の串田さん、イスラエル農務省の岡さん、農研機構の岡田さん、東京農工大学の豊田先生、農研機構の上杉さん、計 11 名の皆さんが編集委員としてジャーナルを支えてくださいます。

前年度からウェブ選挙を導入しまして、千葉県農業事務所の武田さんと、東大の小野さんが「選挙管理委員」として、学会員の皆さんのご判断を広く反映させられるように運営されます。「会計監査」は森林総研の秋葉さんと森林

文化アカデミーの津田先生にお願いする予定でして、総会の際には学会員の皆さんからご了承賜りたいと存じます。

引継ぎは終わり、新体制で動き始めております。評議員の皆さんに諸々のことをご相談し、ご指南いただきながら運営してまいります。学会員の皆さんが良かったとっていただける要素を少しでも増やすことを目指し、運営メンバー自身もやりがいや楽しみを共有できる運営を心がけたいと存じます。まずは 1 期 2 年を宜しく申し上げます

2023~2024 年度学会運営体制

学会事務局

会長選挙および評議員選挙の結果、ならびに評議員会の承認を得て、2023~2024 年度は下記の体制で本学会を運営することになりました。なお、選挙結果については本学会ウェブサイト (<http://senchug.org/>) をご覧ください。

会長：

長谷川 浩一（中部大学）

会計監査候補（内諾済、総会で決定）：

秋庭 満輝（森林総研）

津田 格（岐阜県立森林文化アカデミー）

評議員：

岩堀 英晶（龍谷大学）

神崎 菜摘（森林総研 関西支所）

串田 篤彦（農研機構 北農研）

岡田 浩明（農研機構 植防研）

酒井 啓充（農研機構 植防研）

新屋 良治（明治大学）

竹内 祐子（京都大学）

豊田 剛己（東京農工大学）

植原 健人（農研機構 植防研）

吉賀 豊司（佐賀大学）

編集委員長：

新屋 良治

吉賀 豊司

編集委員：

相川 拓也（森林総研 東北支所）

Gaspard, J. T. ((有) ネマテンケン)

岩堀 英晶

神崎 菜摘

菊地 泰生（東京大学）

小坂 肇（森林総研）

串田 篤彦

Oka, Yuji（イスラエル農務省）

岡田 浩明

豊田 剛己

上杉 謙太（農研機構 植防研）

事務局長：

酒井 啓充

庶務幹事：

青山 理絵（青森県産業技術センター）

北上 雄大（三重大学）

会計幹事：

浴野 泰甫（明治大学）

坂田 至（農研機構 北農研）

広報幹事：

佐藤 一輝（理化学研究所）

与謝野 舜（農研機構 植防研）

選挙管理委員：

小野 雅弥（東京大学）

武田 藍（千葉農業事務所）

編集幹事：

村田 岳（農研機構 植防研）

小澤 壮太（森林総研 東北支所）

竹内 祐子

田中 龍聖（宮崎大学）

（以上、役職ごとにアルファベット順）

日本線虫学会第30回大会案内

大会事務局

1. 大会日程

会期：2023年9月6日(水)～8日(金)

◇ 9月6日(水)

9:00～12:00：評議員会、編集委員会

12:00～：受付

13:00～14:30：一般講演(口頭発表)

14:30～17:00：一般講演(ポスター発表)

14:30～15:45：奇数番号

15:45～17:00：偶数番号

17:00～17:30：ミキサー

17:30～19:30：情報交換会(B1F生協食堂)

◇ 9月7日(木)

9:00～：受付

9:30～12:00：一般講演(口頭発表)

13:00～13:30：総会

13:45～15:15：一般講演(口頭発表)

15:30～17:30：シンポジウム

「線虫学の歴史から学ぶ持続可能な作物生産体系」

(Learning from nematology history for future sustainable crop production)

奈良部 孝(北海道農業研究センター)

Roland N. Perry (University of Hertfordshire)

◇ 9月8日(金)

9:00～：受付

9:30～：一般講演(口頭発表)

閉会式

(発表題数により時間を変更する場合があります)

※大会シンポジウムのZoom公開について

英国Perry教授、北農研の奈良部氏にお願いしている大会シンポジウムに限り、Zoomで公開する予定です。申し込み等、詳細決まり次第、通知いたします。

2. 大会会場

法政大学小金井キャンパス東館(JR中央線東小金井駅下車、徒歩15分)

〒184-8584 小金井市梶野町3-7-2

TEL：042-387-6406(事務室)

3. 大会事務局

東京農工大学大学院生物システム応用科学府
豊田研究室

〒184-8588 東京都小金井市中町2-24-16

TEL & FAX：042-388-7915

E-mail：kokit*cc.tuat.ac.jp

4. 大会実行委員

豊田 剛己(代表)：東京農工大学

河野辺 雅徳：アグリランド/東京農工大学

武田 甲：明治大学黒川農場/東京農工大学

郡嶋 浩志：BASF/東京農工大学

加藤 綾奈：公益財団法人東京都農林水産振興財団東京都農林総合研究センター

大井田 寛：法政大学生命科学部 応用植物科学科

池田 健太郎：法政大学生命科学部 応用植物科学科

5. 参加申し込み方法

Google フォームにて大会参加申し込みを受け付けます。



https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLScHXSVLHLe1Y9Gq-7Y78QKcPuj6hNfma033SNM-TaMNKTuwYRA/viewform?usp=share_link

1) 学生参加申し込み方法

7月28日(金)までに本大会への申し込みをされた学生(学部学生、院生、研究生)の参加費を無料とします。本大会に参加される学生は、7月28日(金)までにGoogleフォームで申し込みをおこなってください。

2) 一般参加申し込み方法

参加を希望される一般の方は、7月28日(金)までにGoogleフォームで申し込みをしてください。当日参加もできますが、参加費が変わります。

3) 大会参加費

7月28日までの申し込みの場合：

一般会員 2,000円

一般非会員 3,000円

学生会員・学生非会員 無料

7月29日以降の申し込みの場合：

一般会員 3000円

一般非会員 4000円

学生会員 1000円

学生非会員 2000円

4) 情報交換会参加費

7月28日までの申し込みの場合：

一般会員・一般非会員 5,000円

学生会員・学生非会員 1,000円

7月29日以降の申し込みの場合：

一般会員・一般非会員 6,000円

学生会員・学生非会員 3,000円

5) 参加費振込先

郵便振替口座 00240-5-89729 (当座：〇二九店 89729)

6) 発表申し込み

本大会にて「口頭発表」もしくは「ポスター発表」を希望される方は、7月28日(金)までにGoogleフォームにて参加申し込みを行い、8月14日(月)までに講演要旨を提出してください。要旨は「8) 講演要旨の作成」に記した形式に従って作成して頂き、希望発表様式をメール本文中にご申告頂いた上で、大会事務局講演要旨受付担当者(豊田剛己、kokit*cc.tuat.ac.jp)へメールにてお送りください(学生が要旨提出をされる場合は、同時に指導教員へもccにて送ること)。

発表者はひとり1題のみですが、共同発表者としての参加は何題でも構いません。また、口頭発表の内容をポスターでも掲載し、皆さんとディスカッションをされたい方は、口頭発表と同タイトル同内容に限ってポスター発表も同時に認めますので、要旨提出時にその旨をお伝えください。

口頭及びポスター発表者は日本線虫学会会員である必要があります。

7) 大会事務局講演要旨受付担当者

(提出締切：8月14日(月))

東京農工大学 豊田剛己
〒184-8588 東京都小金井市中町 2-24-16
TEL & FAX : 042-388-7915
E-mail: : kokit*cc.tuat.ac.jp (*を@に変更)

電子メールで受信した講演要旨については、受信後1週間以内に、受付確認メールを事務局から送信します。1週間を過ぎても確認メールが届かない場合は、大会事務局講演要旨受付担当までお知らせください。

8) 講演要旨の作成 ([ここ](#)から要旨見本ダウンロード)

講演要旨は用紙サイズB5判横置きで、上下左右の余白を2.5 cmとして作成して下さい。1行は全角45字、本文13行、全体16行(タイトル行3行のとき)か17行(同4行以上)以内として下さい。1行目に演者名を記し(発表者の前に○印、複数の場合は・で区切る)、続けて括弧()内に所属の略称(所属が異なる場合は、上付数字を付けて区別する)、1字空けて演題、1字空けて上記事項の英文表記(氏名はMomozono, K.のように、所属はTosei Univ.のように省略して記す)を記載して下さい。その後1文字空けて、責任著者のメールアドレス(学生の場合は指導教員)を付記して下さい。その際、迷惑メールを避けるため、@の代わりに*を使用して下さい。日本語は明朝系フォント(MS明朝など)、英文表記はCenturyまたはTimes New Romanなどのフォント(12ポイントを推奨)を使用し、タイトル行は太字にしてください。本文は行を改めて次の行から始めて下さい。本文中の英数記号は半角を使用して下さい。

電子メールの添付ファイルで提出される場合、ソフトウェアは「MSワード」または「一太郎」を使用して下さい。本ニュース巻末に見本を掲載しております。講演予稿集は大会当日に会場で配布します。このほかに、講演要旨(修正可能)は日本線虫学会誌第53巻第2号に掲載されます。

6. 講演発表

口頭発表の講演時間は、討論時間を含めて1題15分を予定しています。口頭発表はPCプロジェクターのみ使用できます。各自のノートPCをご持参ください。なお、学会事務局で準備するPCをお使いになる場合には、発表当日に受付まで持ってきてください。PCの仕様はWindows 10、対応ソフトはMicrosoft Power Point 2010です。

ポスターは、ポスターボードではなく、壁に直接貼り付けられますので特にサイズの指定はありませんが、一般的なサイズ(900×1,800 mm)を目安に作成してください。なお、ポスターを貼り付ける道具は大会事務局で用意します。

7. 会場アクセス

最寄り駅はJR中央線「東小金井」駅で、東京駅から最短35分です。羽田空港をご利用の場合、モノレールで浜松町にでて、山手線で東京駅に向かい、中央線にお乗り換えください。京急で品川にでて、山手線で新宿駅に向かい、中央線に乗り換える選択肢もございます。

中央線には複数のタイプの電車があります。行き先がどこであっても東小金井を通りますが、中央特快、青梅特快、通勤特快、通勤快速は東小金井駅には止まりませんので、これらをご利用の場合、三鷹駅(東京→神田

→お茶の水→四谷→新宿→中野→三鷹)にて快速にお乗り換えください(三鷹→武蔵境→東小金井)。

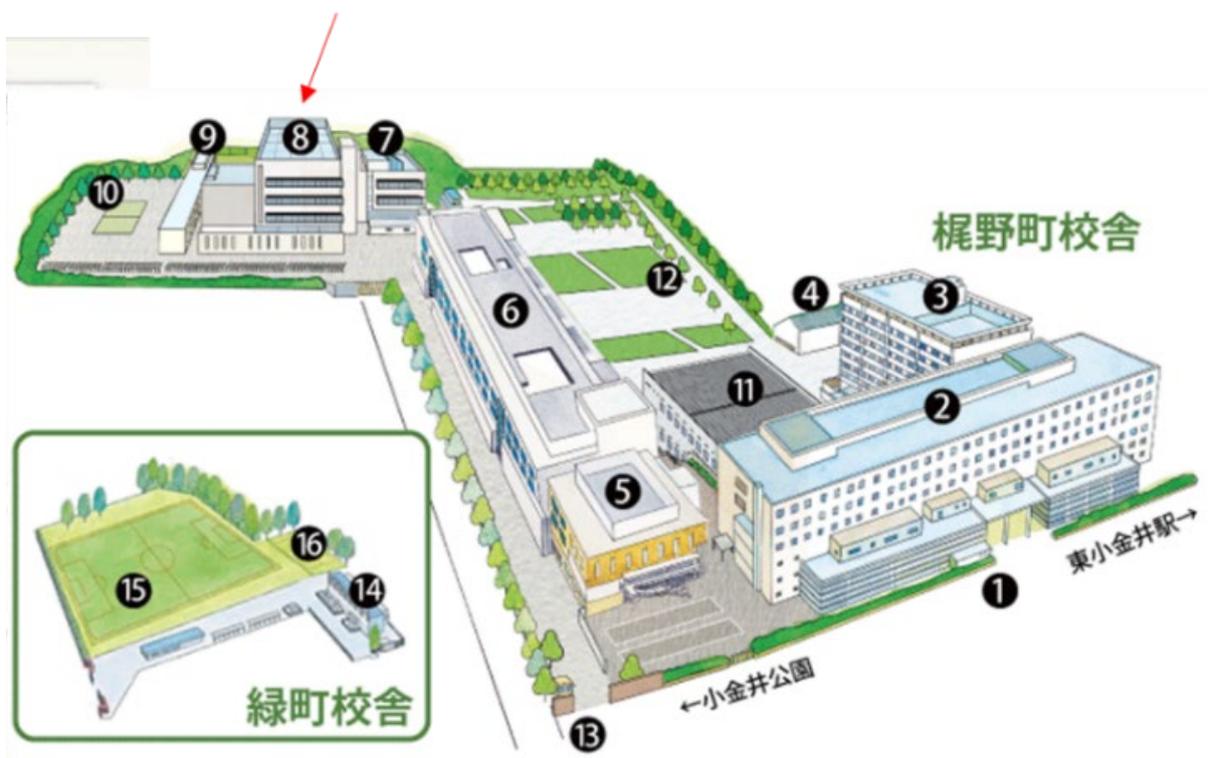
法政大学小金井キャンパスには正門(法政大学小金井キャンパス MAP:①)とけやき門(⑬)の2つの入口があります。正門を利用せずに通り過ぎ、けやき門から入っていただければ、100mほど奥の正面に見えるのが会場である東館(⑧)です。

宿泊は各自ご手配をお願いいたします。東小金井駅周辺にホテルはありませんので、武蔵境駅、国分寺駅、吉祥寺駅、新宿駅、立川駅周辺などのホテルをご利用ください。



◇ 会場周辺 MAP

学会会場：⑧東館



◇ 法政大学小金井キャンパス MAP

日本の線虫拠点紹介シリーズ

浅水 恵理香 (龍谷大学)

龍谷大学は、1639年に西本願寺に設けられた学寮にはじまります。大学となったのは1922年、滋賀県大津市に瀬田学舎が開設されたのが1989年、農学部が開設されたのは2015年です。農学部4学科の学生数は、約1600名です(写真1, 2)。



写真1. 農学部9号館



写真2. 9号館の明るいエントランス

龍谷大学農学部には、線虫学に関連する研究室が二つあります。一つは「応用線虫学研究室」で、農学科の岩堀先生が主宰されています。線虫材料や実験手法について相談する機会が多く、何かと助けていただいている存在です。もう一つが、今回紹介する生命科学科の「植物線

虫学研究室」です。こちらの主宰である私自身は、龍谷大学に着任してから本格的に線虫を扱い始めましたので、線虫界隈では新参者となるでしょうか。

今年度の当研究室には、修士学生2名と学部4回生13名がいます。研究テーマは大きく三つあり、「ネコブセンチュウのゲノム可塑性」・「サツマイモSPレースに関する遺伝子解析」・「緑肥圃場における線虫のエコゲノミクス」です。基本的に各自のテーマはこの中のサブテーマから選んでもらっていますが、興味に応じてそれ以外のテーマを設けることもあります。三つ目に挙げたテーマでは、牧(まき)圃場という学生実習用圃場の一角を研究用に借りています(写真3)。畝立てや緑肥作物の栽培は、農場専門技術スタッフの指導のもと行います。暑い日などは作業が大変ですが、栽培管理をスー



写真3. 緑肥デントコーンをすき込む前の畝で作業する学生

パーバイズしてもらうことで、化学分析や微生物叢・線虫叢の解析に安心して取り組むことができます。微生物叢解析では、第3世代シーケンサーといわれる「ナノポア MinION」を稼働させ、シーケンスデータを蓄積しています（写真4）。将来的には線虫叢解析を発展させ、土壌DNAから線虫種同定を可能にする技術開発も進めたいと考えています。

今年度も夏休み前には新3回生が研究室に所属されてきます。線虫研究は他と比較して地味と思われがちですが、新参者だからこそ伝えられる魅力があると信じて、アピールしています。ワクワクする研究を学生さんたちと続けていけるよう、アイデアを捻り出す日々です。



写真4. 土壌微生物叢を16S rRNA アンプリコンシーケンスで解析中



編集後記

◆2023年度から学会が新体制になってから、最初のニュースとなりました。酒井さんが広報幹事を離れ、今年度からは私と理研の佐藤さんが広報幹事を務めさせていただきます。2年間よろしくお願ひいたします。酒井さんは学会HPの大幅な改良や、線虫学会ニュースの充実などを積極的に進められていましたので、それを引き継いでいくというのはややプレッシャーがありますが、佐藤さんと協力しながらこれまでに負けないよう、学会を盛り上げていければと思っています。今年度は数年ぶりにオンサイトでの大会が開催される予定です。私はオンサイトでの大会に参加したことがないので、みなさまにお会いできるのを非常に楽しみにしています。(与謝野)

◆今年度から、広報幹事の役職を賜りました理研の佐藤一輝です。先輩の与謝野さんと協力しながら、線虫学会ニュース含め、学会運営に貢献していけたらと思います。よろしくお願ひします。さて、今回のニュース記事にもある通り、今年度の学会は3年ぶりにオンサイトでの開催を予定しています。皆様と久しぶりに(リアルで)お会いできるのが、今から本当に楽しみです。特に、多くの学生の皆さんにとっては、研究室外の線虫研究者と会う初めての機会となることでしょう。みなさまには、ぜひぜひ奮ってご参加いただけますと幸いです。(佐藤)

「フジワラ」の線虫関連機器

パーラン法によって線虫を分離
線虫分離装置



シスト線虫の分離に
シスト分離装置



裏表両方から視察できる
H-S スライド



表層土壌の線虫採取に
線虫スコップ



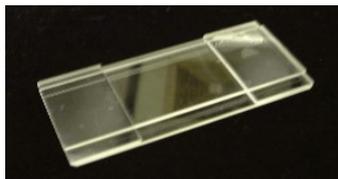
線虫の計数に便利
シラキウス時計皿



線虫の保存に
線虫固定皿



1ml 中の線虫計数に
線虫計数板



安価に計数したい方は
プラクソ格子枠付スライド



長時間の視察にも目に優しい
シスト計数皿



株式
会社

藤原製作所

〒114-0024 東京都北区西ヶ原1-46-16

Tel 03-3918-8111 Fax 03-3918-8119

E-Mail info@fujiwara-sc.co.jp

☆詳しい情報はホームページで！→ <http://www.fujiwara-sc.co.jp/>